

# 国際保健を学べる大学・大学院 青森県立保健大学大学院健康科学研究科



青森県立保健大学・学長

## 吉池 信男 (写真左)

東京医科歯科大学医学部卒業。小児科臨床から国立健康・栄養研究所に移り、栄養政策、国際栄養等に関わる。2008年より青森県立保健大学研究科長、地域連携・国際センター長等を経て2022年より現職。

青森県立保健大学大学院健康科学研究科  
国際地域栄養研究室・准教授

## 三好 美紀 (写真右)

博士(健康科学)、管理栄養士。1999年LSHTM(MPhil)修了後、国立国際医療センター研究所、東京大学大学院医学系研究科(国際保健計画学教室)勤務を経て、2005年より国立健康・栄養研究所にて国際協力に関わる。2018年より現職。

## 1. 新しく MPH コースを 開設します

青森県立保健大学大学院健康科学研究科(博士前期課程・後期課程)においては、多職種協働(看護、理学療法、社会福祉、栄養等)による教育や研究を通じて、地域(国内外を問わず)の人々の健康に貢献できる人材の育成を行っています。看護、栄養関係で青年海外協力隊等として現地で活躍した後に、そこでの経験を生かしさらに学びを深めるため、本学大学院で修士号・博士号を取得された方も多くいます。

2023年度からは、「青森県の健康を丸ごと探求し、世界に還元する人材を育成する」をキャッチフレーズとし、MPH(公衆衛生学修士)コースを開設予定です。わが国においては、全国で

20数校のSPH(公衆衛生大学院)やMPHコース(プログラム校)がありますが、特にローカルな地域の健康と福祉の向上に重点を置き、地方自治体(青森県)との密な連携の下で、医療・保健・福祉の視点から、今求められている「地域包括ケア」を担う高度専門人材を育成する取り組みは、ユニークなものと考えています。このような方向性は、国際保健を担う人材の育成にもつながると考えており、MPHの取得とともに、海外での地域活動を目指す方々にとっても、良い学びの機会になると思っています。

国際保健関係の科目としては、「国際環境保健学(2022年度までは「国際保健学」として開講)」等が開設されます。詳しくは、右のQRコードからHPをご覧ください。



## 2. 「国際地域栄養研究室」 での研究活動

「国際保健」という観点からは、三好准教授が「国際地域栄養研究室」を主催しており、海外で活躍する栄養分野の人材育成及び地域の健康・栄養課題の解決に向けた途上国支援に関する調査研究を進めています。同研究室では、現在5名(博士後期課程1名、博士前期課程4名)の大学院生が、それぞれのフィールドで研究テーマに取り組んでいます(図1)。

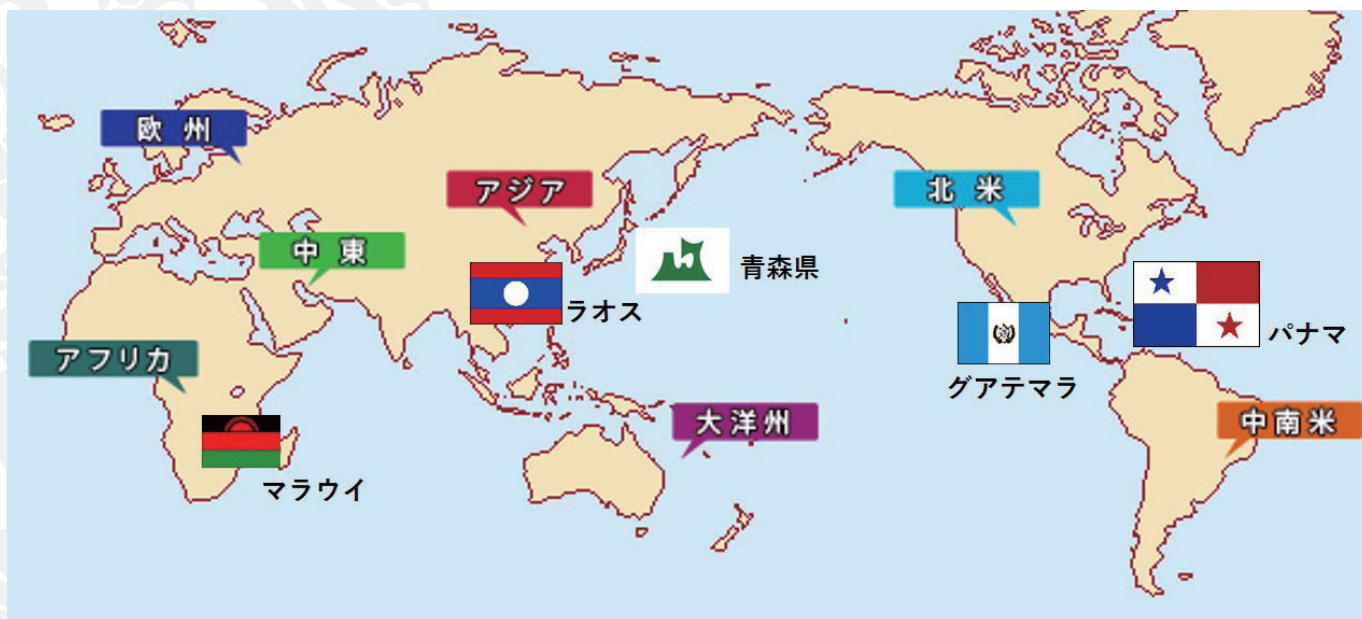


図1:大学院生のフィールド



図2：ラオス農村部での活動が研究テーマへと繋がった。 写真提供：博士後期課程佐藤優氏(NPO法人ISAPH)

博士前期課程4名のうち3名はそれぞれグアテマラ、マラウイ、パナマにおける青年海外協力隊(JICA 海外協力隊)栄養士隊員としての経験をふまえて研究を進めており、博士後期課程2年目の学生は、ラオス農村部での栄養改善プロジェクトから、NGO職員としての経験を活かして研究テーマを設定しています(図2)。ゼミでは院生同士の意見交換を重視しており、国内外を問わず地域住民の未来の「健康」「食」につながる支援を探求していくことを目指している研究室です。

### 3. 青森で一緒に学びましょう！

青森は、自然、文化、人々とのつながりを、肌で感じることができる素敵な所です。食べ物も美味しく、のびのびと心豊かに生活し、学ぶ場所としても適していると思います。授業や研究指導や発表(MPHコースを含む)について、ほぼすべてオンラインでの対応も可能ですので、「リアル」の良さと「リモート」の利便性を組み合わせて、効率的に学びを深めることができます。“最果て感”も十

分ですので、国際協力を目指す方にとっても魅力的な土地だと思います。今後、ベトナム等との国際的な交流の機会を増やしていきたいと思っています。さまざまな形で一緒にできますことを、お待ちしております。

青森県立保健大学の公式インスタグラム

